

平成 30 年度 第 1 回川俣町総合教育会議 議事録

1 日 時 平成 31 年 3 月 27 日（水） 10：00～11：20

2 場 所 川俣町役場 3 階 大会議室

3 出席者

(構成員)	川俣町長	佐藤 金正
	川俣町教育委員会教育長	佐久間 裕晴
	同 委員	佐藤 克弘
	同 委員	高橋 裕美子
	同 委員	後藤 由美子
	※川俣町教育委員会教育長職務代理者 戸田 文士は欠席。	

(関係課長等)	川俣町副町長	山田 清貴
	同 総務課長	佐藤 広一
	同 教育次長兼学校教育課長	増賀 喜芳
	同 子育て支援課長	桑原 千成
	同 生涯学習課長	山口 功

4 会議の主な内容

○開会 司会：佐藤総務課長

○あいさつ

(1) 佐藤町長あいさつ

日頃より町の教育行政にご尽力いただき、感謝する。昨年の 2 月から検討委員会を設け、町における子どもたちの健全な育成や学校の学びを充実させるため、現在の状況や課題を整理しどのように対応すべきかご意見を頂きながら検討を進めてきた。今回は委員会の状況を含めて、わが町の子どもたちを健やかでたくましく育て上げるためにはどうすれば良いか、より具体的なスケジュールを含めながら、皆様と共通認識をより一層高めていきたい。

また、特別支援教育の充実についても皆様からご意見を賜りながら、よりよい町民の未来に向かってあるべき方向付けを作っていく第一歩の会議である。

忌憚の無いご意見をよろしくお願いしたい。

(2) 佐久間教育長あいさつ

教育委員には多忙の中、参集いただき感謝する。平成 29 年 11 月 24 日に平成 29 年度総合教育会議を実施し、子どもたちの未来を見据えた教育や学校の規模等について、昨年 2 月からあり方検討委員会を設置し、約 1 年をかけて子どもたちの未来像を描きながら十分に検討してきた。先月答申を委員長副委員長から頂いて、これから町として、また教育委員会としてその提言を基に準備していきたいと考えてい

るが、それが本当に子どもたちにとってより良い方向を向いているかどうか教育委員の皆様にも検討していただければと考えている。

先日、英語の教科書が検定を通過したとのことで、英語教育について論じている報道が各社あった。これからのグローバル社会で子どもたちが活躍するため、英語教育が定着していくかどうか大きな課題であり、町としては先行して英語教育を進めているところである。世界を見るシンガポール派遣や北海道での英語合宿を実施しているが、これが有効に学校の授業とリンクしながら、効果を発揮していかなければならない。それらを踏まえればまだまだ町として解決すべき課題はたくさんある。子どもたちが学んで良かった川俣町に出来るように進めていきたい。

○議題 進行：佐藤町長

(1) 今後の幼稚園、小・中学校のあり方について

【増賀教育次長】（配布物の確認、学校等再編に係る資料について説明）

【佐藤町長】今の説明について、意見等いただきたい。ここで決めるのではなく、共通認識を持って、課題の確認等を行っていききたい。

【高橋委員】先日答申を受けたが、「再編はいつ頃になるのか？」と複数の方から聞かれている。特に小規模校の父兄の方は近い将来すぐ来るのではないかとこのことで、具体的には制服の購入といった経済面で不安があるようだ。方向性は明確にした上で、現時点でどの段階にあるのかを示しながら進めていかないと混乱する恐れがあるように感じた。

【佐藤町長】今のご意見を受けて、5月頃にはより具体的なスケジュール等についてもお示しできるようにしたいと考えている。当然、議会へも示してご意見を頂くほか、例年6月～7月に実施している町政懇談会で粗々の方向性については、町として固めたものをお示ししたいと考えている。

【後藤委員】自分自身、再編がいつになるか不安はあるが、認定こども園は特に早急にお願いしたい。今回川俣南幼稚園にお伺いする機会があったが、入園から卒園までの期間がバラバラである。バラバラに入園してバラバラに小学校に進むことで、それまでの友達と接する機会も少なくなるし、お母さん同士の繋がりもバラバラになり、相談できるお母さんと離れてしまう方もいると思う。そのため、認定こども園ができて、0歳から付き合っていけるような環境が出来れば、もう少し子育てしやすい町になるのではと考えている。

【高橋委員】具体的に幼・小・中と再編することになるが、優先順位をつけて進めることが大事である。その中で、建物の改修等も実施する必要があることから、認定こども園は急務だと考えている。ひとつ手をつければ他にも手をつけなければならない状況になると思うが、やはり認定こども園が最優先事項に位置付けて進めていくことがまずは大事だと思う。

【山田副町長】議会の全員協議会において、すみよし保育園の改修に係る具体的な提言を頂いているところ。町としては費用対効果を考えると、なかなか着手に至らない状況である。平成31年度予算における、すみよし保育園の改修費用はほとんどない。そのため、議会からも喫緊の課題であるのご指摘いただいております。今ご意見にあったとおり、特に幼児教育を優先的に着手すべきだと考えている。

【佐藤委員】小学校を1校に統合することについて、残るのは川俣小学校と川俣南小学校のどちらなのかと聞かれることがある。南小学校の場合はスペースの問題もあるだろうし、どちらにしてもスクールバスも必要になると思う。また、統合する場合、ほかの小学校名は当然なくなるが、例えば川俣小学校に統合するとして、「川俣小学校」という名前をそのまま残すのか、若しくは全く違う名前をつけるのかも考える必要があると思う。私は新しい名前をつけた方が地域住民の理解は得られるのではないかと考えている。

【高橋委員】幼児教育段階において、ある程度まとまって英語教育を組み入れていけば、小学校・中学校で英語の授業が入ってきても難しいものにはならないはずである。最も効率的なのは、1つの施設で幼児教育の一環として行うことであり、それ以外の様々な意義を考えてもやはり認定こども園は急務である。

【佐久間教育長】少子化はもちろんだが、一番の課題は、0歳児から中学校卒業まで、一貫した骨太の柱ができた教育をやっていかなければならないことである。これは検討委員会でも認めている。少子化が進む中、本来であれば子どもたちは様々な面で揉まれながら育っていかなければならない。そう考えると学校の再編は当然必要になる。また、それと共に「シルクプラン」を策定することで、町として育てたい子ども像を明確化したところ。そのために、0歳から5歳までの幼児教育をしっかり行う基盤として認定こども園は必要になる。幼児教育に力を入れることにより子どもの将来が変わると多くの学者が提言している。町としても、幼児教育の再編や幼稚園・保育園・認定こども園などのより良い環境整備を図っていききたい。制服等についてはそうした環境の整備に後から付いてくるものなので、まずはそういった基本的な部分を進めていきたい。

【後藤委員】認定こども園が出来た後の話になってしまうが、例えば出産を控えたご夫婦と一緒に施設を見学できるようにして、これからの方に町の教育体制をPRすることで、その友人や母親同士を通じて他市町村まで情報が広まっていけば、川俣の人口増加も期待できると考えている。

【高橋委員】教育委員会だけでなく、保健福祉課など町全体として意識を高めて、横の連携を強めて頂くことをお願いしたい。

【山田副町長】先ほどご意見のあった出産前からのPRは本当に大事だと思う。町としても住宅の安価な提供など定住促進施策を実施してきており、そうした町で実施していることと、教育委員会で実施していること、そういった垣根を越えた事業を考えていきたい。

【佐藤町長】資料にある通り、検討委員会としては①小学校を1つに再編する、②幼保一元化を志向した認定こども園を新設する、という2本の柱があるが、どちらが先ではなく、同時に着手するのが一番良いと考えている。そのためにどうすべきかご意見を頂きたい。

【山田副町長】町としても頂いた提言に沿って進めていくべきだと考えている。その中で、「再編の時期に関して、3年～5年後には完了するよう望みます」と記述があるが、私としてはもっと早く完了させるべきだと考えている。

【高橋委員】すでに提言されているので、すぐにでも具体案を作成して、最長3年の認識で進めて頂きたい。

- 【佐藤町長】最長３年とのご意見を頂いたので、一日も早く取り組んでいきたい。可能な限り早く完了出来るよう進めていきたいと考えている。
- 【佐久間教育長】子どもたちのためにも、スピード感を持って再編に取り組んでいきたい。後藤委員からのご意見のとおり、学校だけの問題ではない。これまで学校は地域の要のような存在でもあったため、再編して良かったと地域の方々の理解が得られるように、また図書館的な機能と学校との一体化や生涯学習の場の提供など「地域と学校との接続」を意識した取り組みをしていかなければならない。
- 【佐藤町長】提言の中で、文教地区 A として川俣小学校に小学校を統合し、文教地区 B として川俣南小学校を認定こども園として整備するよう読み取れるがその点に関して何かご意見はあるか。
- 【佐藤委員】川俣南小学校が空いた時点で認定こども園に移行するというイメージなのか。
- 【佐藤町長】方法はいくつもあると考えている。先に川俣南小学校だけ川俣小学校と統合して、川俣南小学校の校舎を認定こども園として整備する方法。統合前から整備を進めていく方法。小学校が全て同じタイミングで統合してから整備を行う方法。そういった方法等についても皆様のご意見を頂きたい。
- 【佐藤委員】私としては川俣南小学校だけ先に統合して、認定こども園の整備を進めていく方法が良いと考えている。
- 【高橋委員】川俣小学校は生徒数も減ってきており、空き教室も多いため、川俣南小学校が先に入ってきてキャパシティは問題ないと思う。
- 【佐久間教育長】川俣小学校は来年度には全学年で１クラスになるような状況である。また、後ほど話に出るが、特別支援の子どもたちをどういう環境の下で支援していくかについても検討が必要である。そうしたことを踏まえても、川俣小学校を大幅に改修等しなくても川俣南小学校と統合することは可能だと考える。
- 【高橋委員】今までの話を聞いて、具体的な進め方が見えてきたように感じる。川俣小学校と川俣南小学校の取り扱い・位置づけがわかれば、その他の小規模校の対応に移行していけるのではないかと考える。
- 【山田副町長】川俣南小学校を認定こども園として問題なく運営するためには、大規模な改修工事が必要になると考えられる。そうした改修スケジュールに関しても、早急に作成し、予算を要求していくような流れを作っていきたい。
- 【後藤委員】認定こども園に図書館を設置してお年寄りが集まれる場所にするなど、何か付加価値的なものも検討して頂きたい。
- 【佐藤町長】まずは小学校を再編して川俣小学校に全て統合することにご理解を頂くことが大前提。施設や環境の整備はその後に行うべきものである。また、川俣小学校についても統合に際して何をしなければいけないのか、どんな課題があるのかを整理しなければならない。
- 【高橋委員】例えば福田小学校と富田小学校を考えた場合、富田小学校はキャパシティが狭いが、人数の少ない福田小学校を入れることは可能なのか。
- 【佐久間教育長】富田小学校は意外とスペースがないが、福田小学校を持ってきても問題ないと思われる。ただし、最終的に川俣小学校に全て統合することを考えると、富田小学校と統合して、さらに川俣小学校と統合するのは父兄にとっても

子どもたちにとっても好ましくない。それよりは一度に川俣小学校へ統合した方が理解も得やすいと考える。また、校名の話が先ほどあったが、やはり川俣町であるので、全く新しい校名は難しいと思うが、川俣〇〇小学校という校名は可能性の一つとして検討することは出来るのでは。また、検討委員会において2校案もあったが、やはり1校の方が充実した教育ができ、地域の理解も得やすいのではないかと考え、1校に集約していく方向になったところ。少子化で人数が減ったために再編・統合するということではなく、一番は一貫性のある教育と目指すべき子ども像を実現するために統合していくという考えに至った。再編を実現するためにも丁寧な説明をする必要がある。

【後藤委員】川俣中学校との交流も期待できるので、川俣小学校に統合することについては賛成である。校名については、川俣中学校があることからそのまま川俣小学校がいいと思う。校名よりしっかりした教育が重要である。また、認定こども園が出来れば、認定こども園から川俣小学校、川俣中学校という流れができ、友達と違う小学校になったりすることがなくなるので、迅速な対応をお願いしたい。

【佐藤町長】再編は小学校だけでなく幼稚園についても検討が必要だと考えている。川俣南幼稚園は平成32年度には園児数が10人未満になる予定である。実際の数字は未確定ではあるが、幼稚園についてもどうしていくべきかご意見を頂きたい。

【桑原子育て支援課長】富田幼稚園で3歳児保育を行っていることから、川俣南幼稚園学区の園児であっても、3歳～5歳までそのまま富田幼稚園に通う方が多く、川俣南幼稚園の園児が少なくなっている状況。

【高橋委員】川俣幼稚園と合併する前の川俣南幼稚園に見学に行ったが、年中クラスと年長クラスが合同で保育を受けていた。やはり年中と年長で差があるので、合同だと十分な教育に繋がらないと考える。見込園児数を見ると、再びそういった状況になる可能性が高いように感じる。

【後藤委員】富田幼稚園で3歳児保育を始めた段階で想定できた状況。やはり1年の差は大きいので、合同になるようであれば幼稚園も一つに統合して学年ごとに保育を受けられるような体制を整備すべきだと考える。

【佐藤町長】認定こども園を先ほどのスケジュールで作ると仮定したときに、果たしてどちらがいいのかについても考えなければならない。平成32年度に富田幼稚園に統合したとしても、その1～2年後には認定こども園に移らなければならない。一方でそのまま2園体制を継続するとしても、川俣南幼稚園については人数の少なさから合同保育になる可能性もある。そういったことについてもご意見頂きたい。

【後藤委員】仮に富田幼稚園に統合するとして、スペースは足りるのか。

【桑原子育て支援課長】富田幼稚園は1階に4教室あり、2階はリズム室になっている。3教室を普段使用しており、1教室は預かり保育で使用している。施設的には川俣南幼稚園の方が十分なスペースを持っている。

【後藤委員】以前、富田幼稚園は4教室使用し、その後で預かり保育として使用していたこともあるので、富田幼稚園への統合も不可能ではないのでは。

【佐藤町長】幼稚園も人の変化が著しいということは認識しなければならない。学校等再編については、皆様から多くのご意見を頂いたので、出来る限り早く答申に沿った内容で進めていきたい。

(2) 特別支援教育の充実について

【増賀教育次長】（特別支援教育の充実に係る資料を説明）

【佐藤町長】今の説明について、意見等いただきたい。

【高橋委員】巡回相談について、幼稚園の段階で気付かなかった親が早く気付くことができ、早期に発見されれば改善も早くなることから、安心して次の手段に移行できるため良かったとの声を聞いた。一方、そうした前向きではない親の場合、説得や説明が難しい。

【後藤委員】やはり自分の子供を悪く言われたくないので、支援が必要だとなかなか認めたくない方はいる。そういった方への説得は難しい問題でもある。ただ、近年は特別支援への理解も増えてきているので、ちょっとしたことで気づいて、特別支援教育を受けて、症状が改善して元のクラスに復帰するということも多くなってきた。特別支援学級に入った方が多い場合が多いので、親への話し方・説得の仕方を慎重に考えながら、今よりさらに理解が増えればいいと思う。

【佐藤委員】小学校にも中学校にも特別支援学級はあると思うが、例えば一つの学校で一貫した支援をすることは可能なのか。

【佐久間教育長】インクルーシブ教育といって、一部の授業を合同で行うなど健全な子供たちと関わりを持つことが非常に重要である。もちろん障害の程度が重度の児童については特別支援学校というものがあるが、特別支援学級や通級指導を受ける児童の場合には、全く別の学校や建物ではなく、関わりを持てる環境作りをすることが重要だと考える。

【高橋委員】一部授業を合同で行ったりイベントに交ざったりすることで、特別支援児童はもちろん、それ以外の児童にとっても、人と関わり方を学んだり、団体の中での「個」を見出したりする良い機会になる。

【佐藤町長】今年度については、説明のあったとおり充実した特別支援体制が構築されている。今後も皆様のご意見を頂きながら進めていきたい。

(3) 「未来に羽ばたく地球人」プロジェクトについて

【増賀教育次長】（プロジェクト資料について説明）

【佐藤町長】今の説明について、意見等いただきたい。

【山田副町長】委員の皆様はシンガポールへの中学生派遣事業に係る報告書を配布させて頂いたので後ほどご覧いただきたい。ホームページにも掲載して、町民の皆様にもPRしようと考えている。平成30年度の新規事業として、12名の中学生と共にシンガポールへ行き、現地の状況や海外進出している日本企業について学習してきたところ。全員の感想をそのまま載せているので、是非ご一読いただきたい。

【佐藤委員】中学生派遣事業に参加した生徒から、「とても充実した研修旅行だった。」との声を聞いた。異文化に触れる機会は非常に重要だと思うし、中学生と

いう多感な時期にこうした事業を通して異文化交流できることは、子供たちにとって非常に重要な糧となると考える。今後も是非この事業を継続して頂きたい。

【高橋委員】技術的な支援については他市町村でも実施していると思う。いざ異文化に触れた時に自分はどのように対処するかといった「人間力」をどう高めていくかが重要である。抽象的な表現ではあるが、基盤になる「人間力」の向上に繋がるような教育をお願いしたい。

【後藤委員】高校のその先、川俣から出た子供たちがどうなっているのかまで調べて、教育に繋げていけたらいいと思う。具体的には、町内に残る子供や町外・県外に出て行った子供たちが集まるであろう成人式で、実際に子供たちから例えば小・中学校時代の生活や教育について話を聞いたり、大学生の余暇を利用して、現在の生徒たちに先輩としてのアドバイスやちょっとしたお話をしてもらったりするところまで発展すれば、生徒にとっても有意義な時間になるのではないかな。

また、川俣大使ではないが、町から出た子供たち一人一人が自分の町を PR してくれるようになれば、町にとっても有益なことだと思う。

【佐藤町長】4月から出入国管理法が改正になり、外国人労働者の受け入れが拡大となる。川俣町も例外ではなく、そういった方が多く入ってくるようになる。そういった外国人と接する機会を一部の地区公民館で設けているが、町としても機会の拡大を図っていきたい。

また、成人者については、一部地区公民館において成人者と地域住民の交流を目的として新年会を開催している地域がある。そこで、現状や将来について話を聞く機会があるので、そういった声についても広報等で周知していけたらと考えている。目指すべき目標、解決すべき課題は無限大であるので、皆様の意見を伺いながらより良い学びの場を提供していきたい。

(2) その他

【佐藤町長】その他として、皆さんより何かあるか。

(特になし)

○閉会 司会：佐藤総務課長